

(記入例)

除害施設設置(変更)届出書

令和〇〇年 〇〇月 〇〇日

(宛先)長野市上下水道事業管理者

申請者 住 所 東京都〇〇区〇〇1丁目23番地
氏 名 株式会社 〇〇〇〇
代 表 者 名 代表取締役 〇〇 一郎
電 話 番 号 03-〇〇〇〇-〇〇〇〇

長野市公共下水道条例第12条第1項の規定により、除害施設の設置(変更)について、次のとおり届け出ます。

事業場等の名称	レストラン〇〇〇 長野店	※整理番号	
事業場等の所在地	長野市〇〇2丁目3番地	※受理年月日	
業務内容	飲食店(店舗面積〇〇m ²) ※	※施設番号	
操業時間・休業日	〇〇:〇〇~〇〇:〇〇 休業日:毎週〇曜日		
除害施設の名称・型式	油水分離槽 型式G-400	※審査結果	
排水処理の方法	自然沈殿分離式	※備 考	
除害施設施工業者	(株)〇〇設備工業		
工事着工予定	令和〇〇年 〇〇月 〇〇日		
工事完了予定	令和〇〇年 〇〇月 〇〇日		

※店舗面積は、業務の用に供する部分のすべてを含んだ面積をいう。(ちゅう房・客席・倉庫・トイレ・更衣室等)備考

- 下水の量及び水質(別紙)、付近の見取り図、給排水系統図、除害施設の構造図、使用薬品(材料)等の一覧表、発生汚泥の処理に関する図書を添付すること。
- ※印の欄には、記載しないこと。
- 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本工業規格A4とすること。

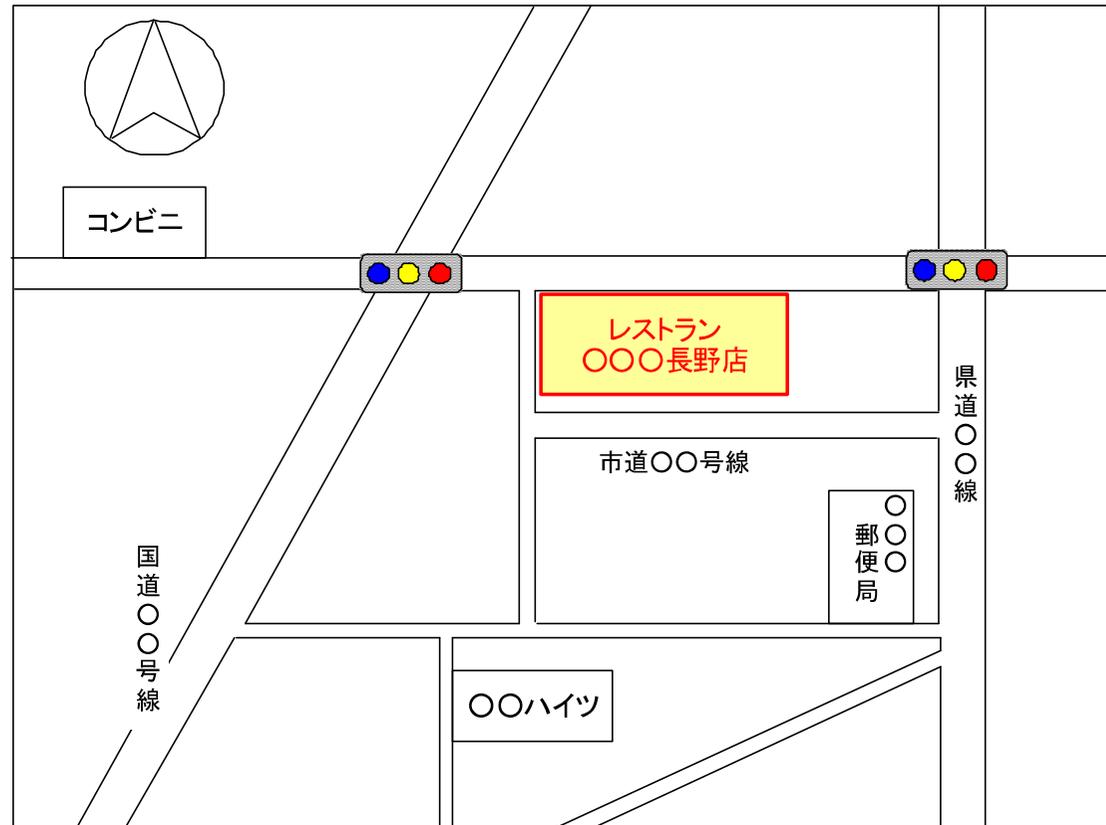
汚水の処理の方法

汚水処理施設名 (汚水処理施設番号)	油水分離槽 (1)	()	()
着手予定	〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日	年 月 日
完成予定	〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日	年 月 日
使用開始予定	〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日	年 月 日
汚水処理施設の概要	汚水処理の方法	自然沈殿分離式	
	種類・型式	〇〇社製 3槽式 G-400型	
	能力	容量 400L (実容量 398L)	
	汚水処理施設の構造	別図(7)のとおり	別図()のとおり
汚水処理施設の使用時間	10時から 22時まで 連続(時間ごと) (13 時間/日)	時から 時まで 連続(時間ごと) (時間/日)	時から 時まで 連続(時間ごと) (時間/日)
季節的変動の概要	なし		
汚水等の処理に要する 消耗資材の1日あたりの 用途別使用料	なし		
残渣の量及び その処理方法	汚泥〇〇kg/月 産業廃棄物処理委託		
排除場所	下水道No.1		
その他参考事項	残渣の回収業者 「株」〇〇〇サービス TEL 026-〇〇〇-〇〇〇〇		

下水の量及び水質

排水口番号		下水道No.1				(参考)
下水排除量(m ³ /日)		平均	最大	平均	最大	下水排除 基準
項	目 (単位)	8.0	10.0			
温度	(°C)					45
水素イオン濃度(pH)		7.2	7.4			5~9
生物化学的酸素要求量(BOD)	(mg/l)	120	150			600
浮遊物質(SS)	(mg/l)	30	50			600
n-ヘキサン	鉱油類 (mg/l)					5
抽出物質	動植物油脂類 (mg/l)	15	20			30
よう素消費量	(mg/l)					220
フェノール類	(mg/l)					5
銅	(mg/l)					3
亜鉛	(mg/l)					5
溶解性鉄	(mg/l)					10
溶解性マンガン	(mg/l)					10
クロム	(mg/l)					2
カドミウム	(mg/l)					0.05
シアン	(mg/l)					0.5
鉛	(mg/l)					0.1
有機りん	(mg/l)					1
六価クロム	(mg/l)					0.3
ひ素	(mg/l)					0.1
総水銀	(mg/l)					0.003
アルキル水銀	(mg/l)					不検出
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	(mg/l)					0.003
トリクロロエチレン	(mg/l)					0.3
テトラクロロエチレン	(mg/l)					0.1
ジクロロメタン	(mg/l)					0.2
四塩化炭素	(mg/l)					0.02
1,2-ジクロロエタン	(mg/l)					0.04
1,1-ジクロロエチレン	(mg/l)					1
シス-1,2-ジクロロエチレン	(mg/l)					0.4
1,1,1-トリクロロエタン	(mg/l)					3
1,1,2-トリクロロエタン	(mg/l)					0.06
1,3-ジクロロプロペン	(mg/l)					0.02
チウラム	(mg/l)					0.06
シマジン	(mg/l)					0.03
チオベンカルブ	(mg/l)					0.2
ベンゼン	(mg/l)					0.1
セレン	(mg/l)					0.1
ほう素	(mg/l)					10
ふつ素	(mg/l)					8
アンモニア性窒素、亜硝酸性 窒素及び硝酸性窒素	(mg/l)					380
ダイオキシン類	(pg-TEQ/l)					10
摘 要						

図-1 付近の見取り図 (記入例)



図一2 建物の配置図 (記入例)

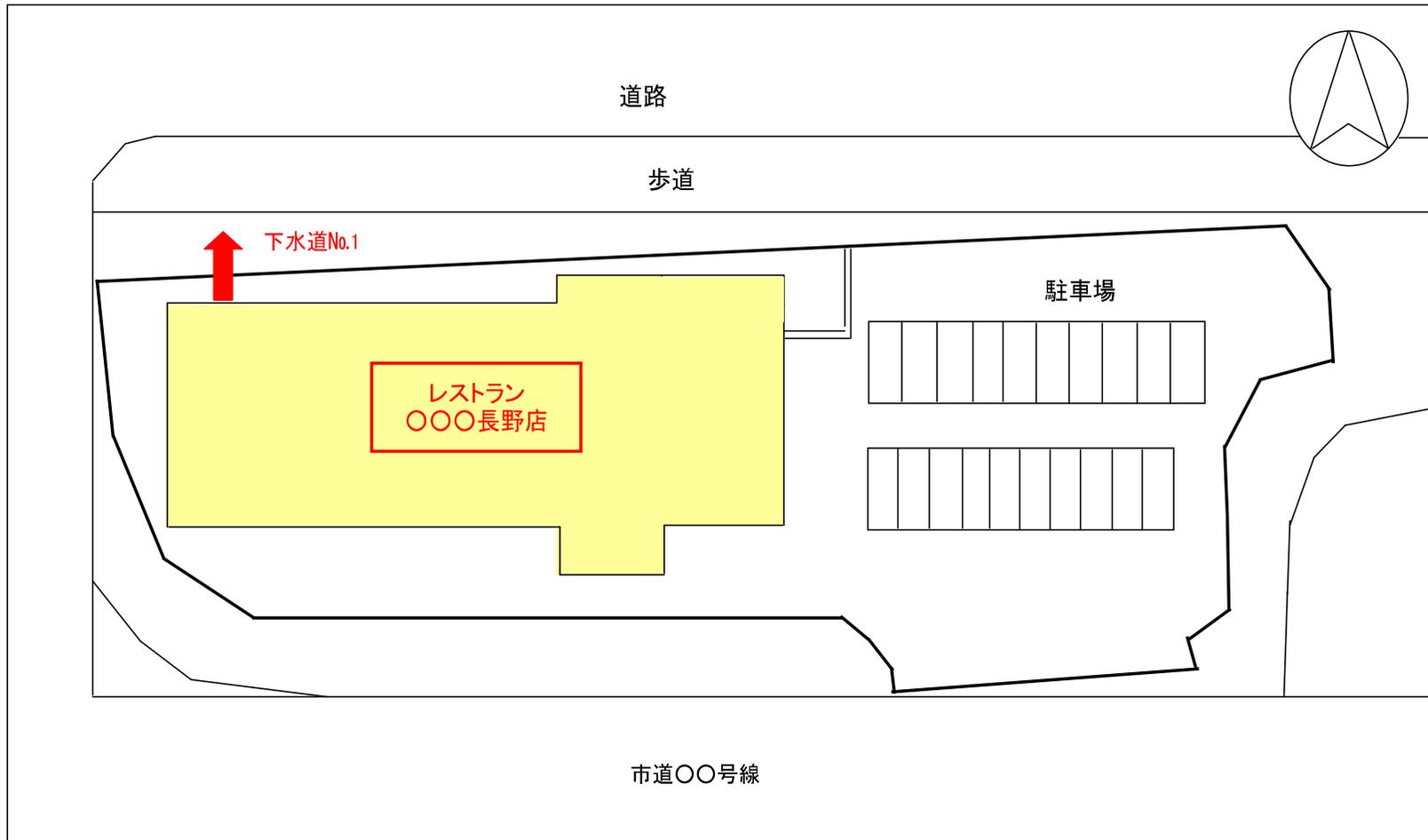


図-3 面積表 (記入例)

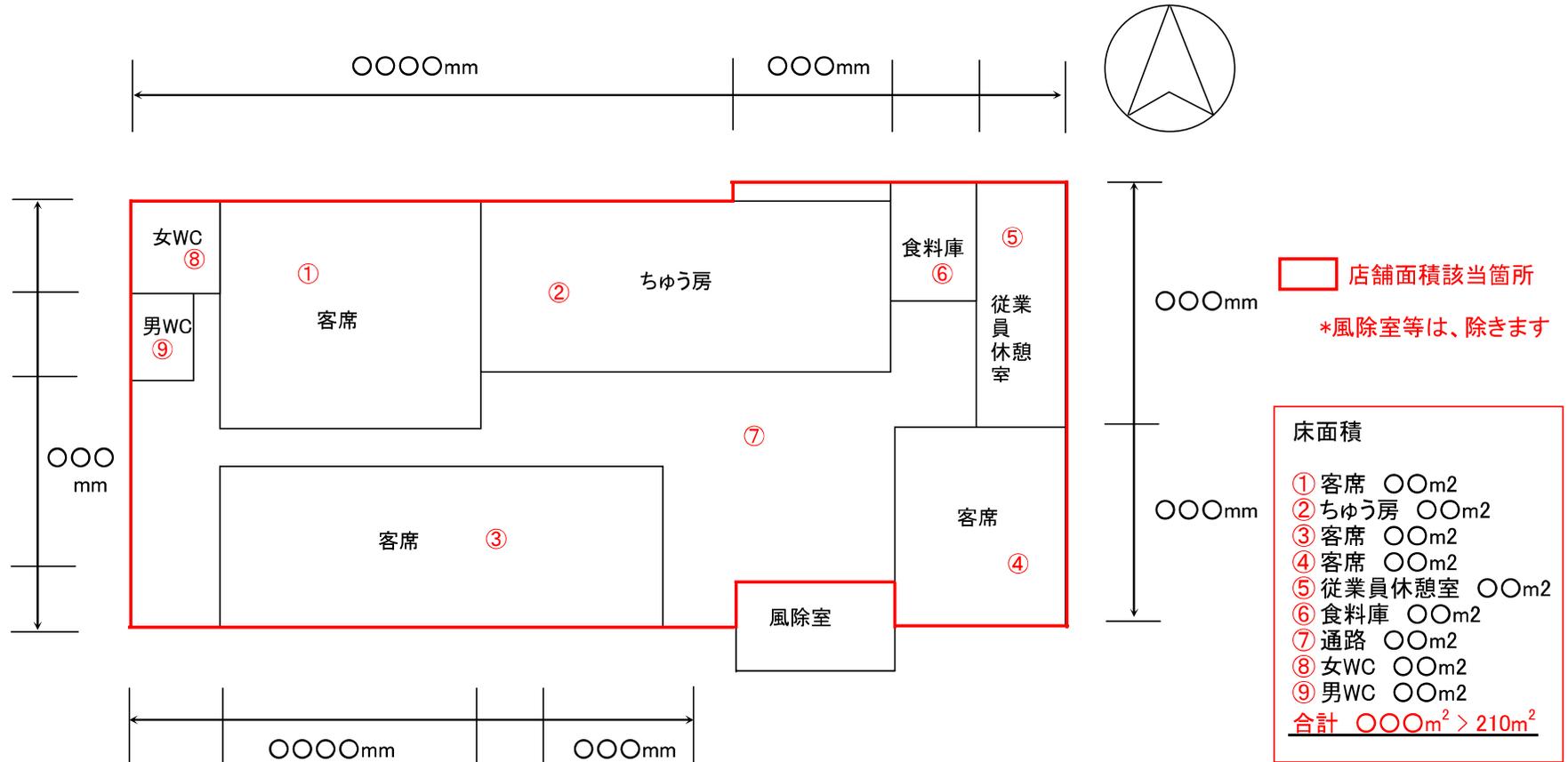


図-4 給水管図 (記入例)

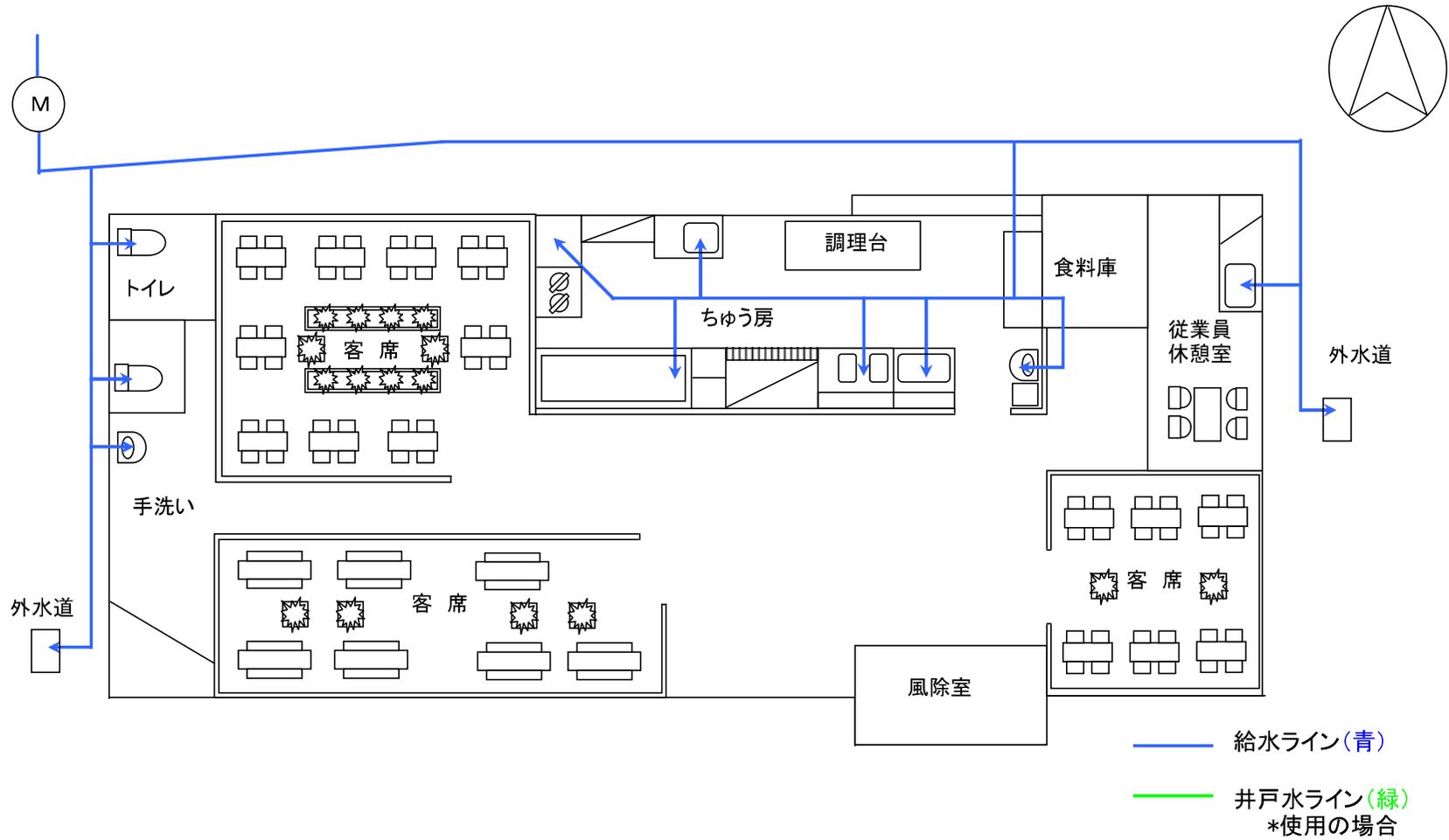


図-5 排水管図 (記入例)

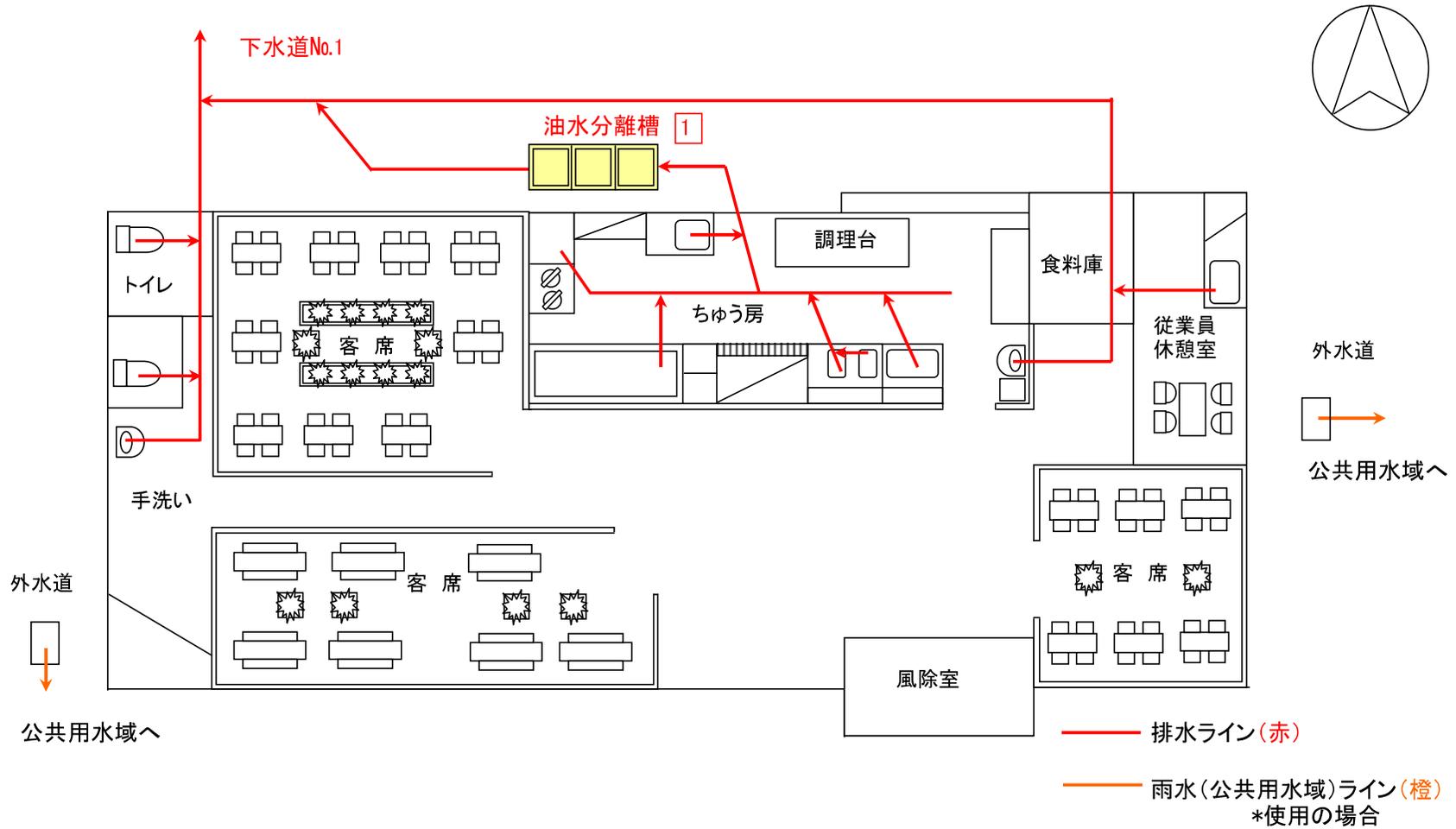


図-6 操業系統図 (記入例)

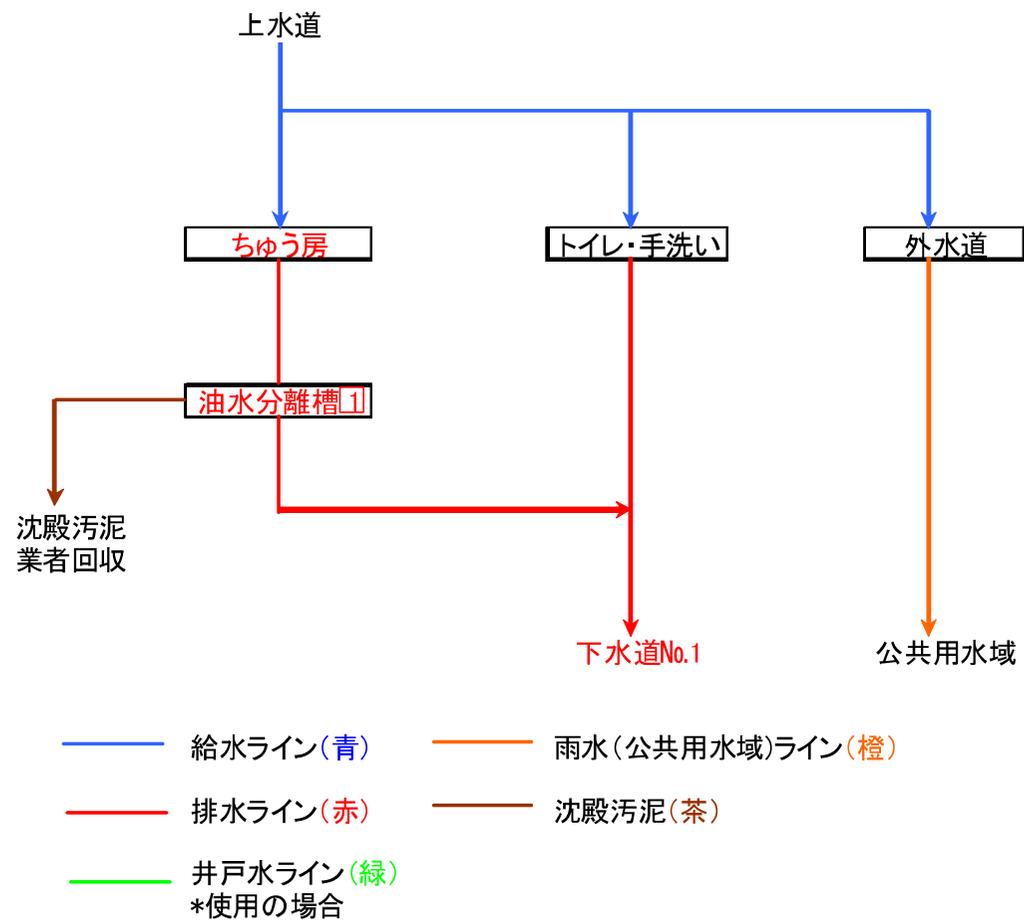
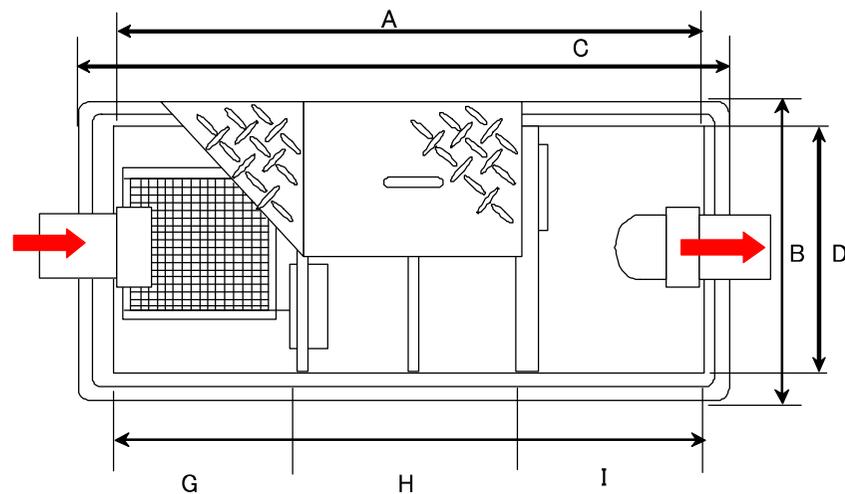


図-7 油水分離槽の構造図 (記入例)

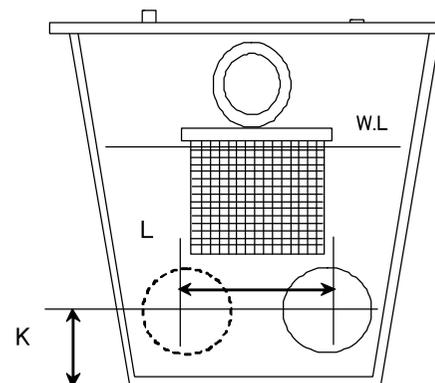
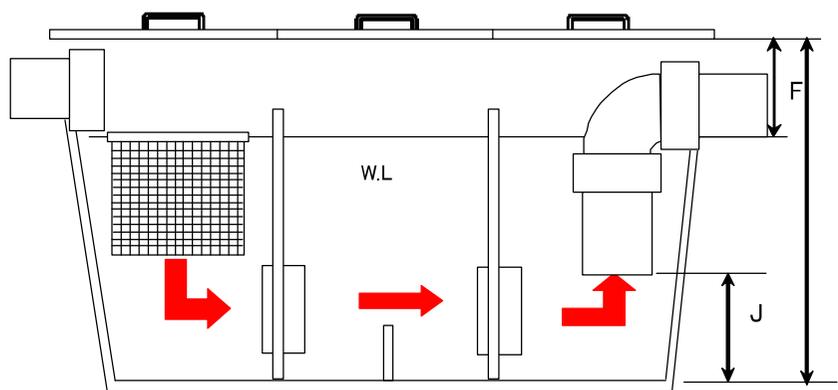


油水分離槽 ①

□□社製
3槽式 G-400型 必ず寸法を明記してください。

型式	実容量 (L)	許容流入量 (L/min)	標準グリス阻集量 (kg)
G-50	48	36.0	11.3
G-100	98	67.5	21.2
G-150	148	115.5	36.3
G-200	198	159.7	50.3
G-250	248	187.5	59.0
G-300	298	226.5	71.3
G-350	348	266.2	83.8
G-400	398	292.5	92.1
G-450	448	330	103.9
G-500	498	373.5	117.6

型式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	有効水量
G-400	1400mm	710mm	1300mm	610mm	800mm	220mm	520mm	390mm	390mm	150mm	150mm	300mm	398L



8 油水分離槽選定計算書（記入例）

*工場製造の阻集器の選定の場合

空気調和・衛生工学会規格
SHASEによる計算例

*決まった書式等はありません

業種: 洋食

A	: ちゅう房延床面積(ちゅう房、客席)	<u>318.79</u>	m ²
t	: ちゅう房使用時間	<u>720</u>	分
G _u	: 阻集グリース質量/1日	<u>8.5</u>	g
k	: 危険率を定めた時の流量に対する倍数	<u>3.5</u>	
n	: 回転数/1日1席あたり	<u>5</u>	人
n ₀	: 補正回転数/1日あたり	<u>2.9</u>	
G _b	: たい積残さの質量/1日1m ² あたり	<u>3.5</u>	g
i _u	: グリース掃除周期	<u>7</u>	日
i _b	: たい積残さの掃除周期	<u>28</u>	日
W _m	: 使用水量/1日1m ² あたり	<u>95</u>	L
C ₂	: 定数	<u>10⁻³</u>	

1. 阻集グリース層の容量 $G_u = A \times g_u \times n / n_0 \times i_u \times C_2$

$$G_u = \frac{318.79 \times 8.5 \times 5 / 2.9 \times 7 \times 10^{-3}}{1} = 32.7 \text{ kg}$$

2. 流入水量 $Q = A \times W_m \times n / n_0 \times 1 / 720 \times k$

$$Q = \frac{318.79 \times 95 \times 5 / 2.9 \times 1 / 720 \times 3.5}{1} = 253.8 \text{ L}$$

3. たい積残さ層の容量 $G_b = A \times G_b \times n / n_0 \times i_b \times C_2$

$$G_b = \frac{318.79 \times 3.5 \times 5 / 2.9 \times 28 \times 10^{-3}}{1} = 53.9 \text{ kg}$$

今回設置する油水分離槽は、G-400(図-7)

許容流入量は、292.5 L

グリス阻集量は、92.1 kg

上記の計算結果と比較すると、

流入流量は、253.8 L < 292.5 L

グリス阻集量は、32.7 + 53.9 = 86.6 < 92.1 kg

したがって、今回設置の油水分離槽(G-400)は、処理能力を満たしています。